

女子中学生の運動に対する愛好的態度の育成に向けた体育の授業づくり  
ーティーボールを採用したベースボール型の単元計画作成とその有効性ー

**A study on the plans for physical education classes to encourage female junior high school students  
to like sports : development of the unit plan in baseball type game using tee ball and its effects**

1K09B193-6 三浦 由華子

指導教員 主査 吉永 武史先生 副査 吉村 正先生

**【研究の目的・方法】**

体育の授業が「楽しくない」「おもしろくない」などの理由で、運動やスポーツが嫌いになる女子中学生は少なくない。女子中学生はベースボール型の学習経験が少なく（栗原,2011）、投動作のみならず打撃動作も効率よく実行することができない場合が多い。このような技能的困難さが障壁となって、女子生徒を対象とした球技の授業ではベースボール型が取り上げられることが少なかった。そこで本研究では、女子中学生の運動に対する愛好的態度を育むための体育授業のあり方について検討し、「止まっているボールを打つ」ティーボールを教材として採用したベースボール型の単元計画を作成し、その有効性について検証することを目的とした。

第1章では、生徒の体力低下問題とその解決に向けたアプローチを明らかにする一方で、新学習指導要領に対応したこれからの体育授業のあり方について検討した。第2章では、既に小学校体育科の素材として採択されているベースボール型のティーボールの教材的価値に着目し、学校現場で実際に取り組まれている授業実践について検討した。第3章では、女子中学生を対象とした体育授業に関する調査を実施し、その結果をもとにティーボールを教材として取り入れたベースボール型の単元計画を作成した。また、その有効性を検証するために、関東圏内のA中学校2年生女子を対象にベースボール型の授業を実践し、その結果についての考察を行った。

**【第1章】新学習指導要領に対応した体育科・保健体育科の授業づくり**

2008（平成20）年に改訂された学習指導要領（文部科学省,2008）では指導内容の明確化・体系化が図られ、小学校・中学校・高等学校の12年間を見通した「4-4-4」のまとまりで示された。これからの体育授業のあり方として、指導内容の体系化を重視したカリキュラムづくりや、基本的な技能を身に付け、それを活用しながら課題の解決に取り組む学習指導過程を構想していくことが求められるようになった。また、ボールゲーム（ゲーム・ボール運動・球技）の枠組みが「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」となったが、こ

れは従来の種目主義から型に共通する動きや技能を系統的に身に付けることを意図したものであった（文部科学省,2008）。

**【第2章】体育教材として採用されたベースボール型のティーボール**

ベースボール型の授業を実施する場合、現行の中学校学習指導要領ではソフトボールを取り扱うことになっている。しかし、ソフトボールはその技能的困難さや小学校段階での学習経験の少なさから、女子中学生を対象としたベースボール型の授業で取り扱われることは容易ではない。そこで「止まったボールを打つ」ティーボールを採用することで、技能的困難さを軽減させ、誰もがベースボール型の醍醐味を味わえるのではないかと考えた。特に、「打てる」という有能感が生徒の学習意欲を喚起させ、運動に対する愛好的態度を育むことに繋がるのではないかと考えた。

**【第3章】女子中学生の運動に対する愛好的態度の育成に向けた体育の授業づくり**

女子中学生の運動に対する愛好的態度の実態を明らかにするために、東北圏内の女子中学生（52名）を対象に体育授業に関するアンケート調査を実施した。その結果、「運動の有能感」や「できる自信」の項目についての低さ（5段階評価の「1」）が明らかとなり、体育を苦手とする女子中学生が少なくないということが改めて示唆された。この結果を受けて、女子中学生の運動に対する愛好的態度育成に向けたティーボールを教材として取り入れたベースボール型の単元計画（7時間）を作成し、その有効性を検討するために関東圏内のA中学校2年生の女子生徒を対象に授業を実践した。診断的・総括的授業評価の結果より、いずれの項目においても単元前後の平均得点に伸びがみられたことから、今回設定したベースボール型の単元計画が一定の学習成果を保証するものであることが明らかになった。しかし、「運動有能感」ならびに「できる自信」に関しては、その平均得点ならびに5段階評価は低いままであり、女子中学生の運動嫌いを克服することは決して容易なことではなく、ベースボール型の単元計画のさらなる工夫が必要であることが示唆された。